

DXシリーズ イベント動画ロギングパッケージ編

ユーザーズマニュアル

使用上の注意

パッケージをご利用される場合は、必ず最新版のパッケージにアップデートしてください。
以下のライセンスポータルからファイルを取得し、データフローコントローラにアップロードすること
でご利用できます。

<https://license-user.automation.omron.com/>

アップロードの詳細手順は、ダッシュボードジェネレータのマニュアル「2-4 プリインストール以外の
パッケージ導入手順」を参照してください。

おことわり

- (1) 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で複写、複製、転載することを禁じます。
- (2) 本マニュアルの内容に関しては、改良のため予告なしに仕様などを変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- (3) 本マニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お手数ですが、弊社支店または営業所までご連絡ください。その際、巻末記載のMan.No.（マニュアルNo.）も併せてお知らせください。

商標

- ODVA、CIP、CompoNet、DeviceNet、EtherNet/IPは、ODVAの商標です。
- SD、SDHCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。 
- SpeedBee Synapseは、株式会社ソルティスターの商標です。
- Grafanaは、Grafana Labsの商標です。

著作権

- 本製品にはサードパーティ製のソフトウェアが組み込まれています。このソフトウェアに関連するライセンスと著作権については、<https://www.fa.omron.co.jp/product/tool/dx-info/index.html>をご覧ください。

はじめに

このたびは、DX シリーズ データフローコントローラをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本マニュアルは、DX シリーズ データフローコントローラに付随するイベント動画ロギングパッケージに関する情報を記載しています。

お使いになる前に本マニュアルをよく読んで、機能・性能などを十分ご理解いただき、システムの構築にご活用ください。

対象となる読者の方々

本マニュアルは、電気の知識(電気工事士あるいは同等の知識)を有する、次の方を対象に記述しています。

- 生産現場のデータ活用システムを設計、運用される方
- 生産現場の保全システムを設計、運用される方

本マニュアルを読むにあたってのご案内

「ご承諾事項」、「注意事項」、「安全上の要点」、「使用上のご注意」、「関連マニュアル」の情報は、「DX シリーズ データフローコントローラ ユーザーズマニュアル(SBSB-538)」を参照してください。

マニュアル改訂履歴

マニュアル改訂記号は、裏表紙に記載されている Man.No. の後尾に付記されます。

Man. No. SGTE-733B

↑ 改訂記号

改訂記号	改訂年月	改訂理由・改訂ページ
A	2025 年 10 月	初版
B	2025 年 10 月	誤記修正

目次構成

		1
1	特徴とシステム構成	2
2	設定方法	

目次

はじめに	1
対象となる読者の方々	1
本マニュアルを読むにあたってのご案内.....	1
マニュアル改訂履歴.....	2
目次構成	3

第 1 章 特長とシステム構成

1-1 イベント動画ロギングパッケージでできること	1-2
1-2 システム構成例	1-3

第 2 章 使用手順

2-1 全体チャート	2-2
2-2 IP カメラと I/O キャッチャーの設定.....	2-3
2-2-1 IP カメラの設定.....	2-3
2-2-2 IO-Link マスタの接続・設定.....	2-4
2-3 イベント動画ロギングパッケージの立ち上げ	2-5
2-3-1 設定手順 システム構成（1）の場合	2-6
2-3-2 設定手順 システム構成（2）の場合	2-21
2-4 イベント動画の再生.....	2-42

特長とシステム構成

本章では、イベント動画ロギングパッケージの特徴、システム構成について説明します。

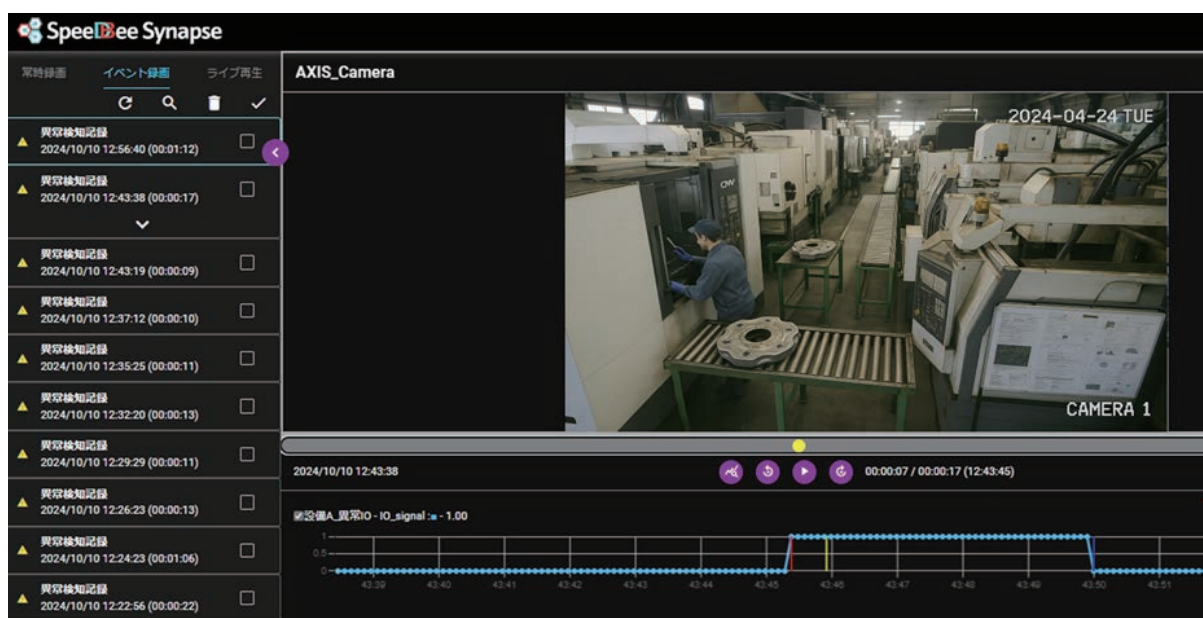
1-1 イベント動画ロギングパッケージでできること	1-2
1-2 システム構成例	1-3

1-1 イベント動画ロギングパッケージでできること

● イベント動画ロギングパッケージ

本パッケージは、IP カメラとセンサーを後付けすることで、設備に異常が発生した際の動作状態を動画で記録し、異常要因の特定を支援します。従来、設備の異常が発生した場合、保全担当者が製造現場に赴き、該当設備の状態や動作を目視で確認していました。このため、原因究明や復旧には多くの時間と工数がかかっていました。

本パッケージでは、IP カメラと PLC などが出力する異常ステータス信号を取得するセンサーを設置します。異常ステータス信号をトリガーとして、その前後の動画を録画・保存することが可能です。保存した動画を視聴することで、異常発生前後の設備の状態を視覚的に確認できるため、現場に行く前に異常状態を把握しやすくなります。これにより、迅速に異常要因を特定し、復旧までの時間を短縮することができます。

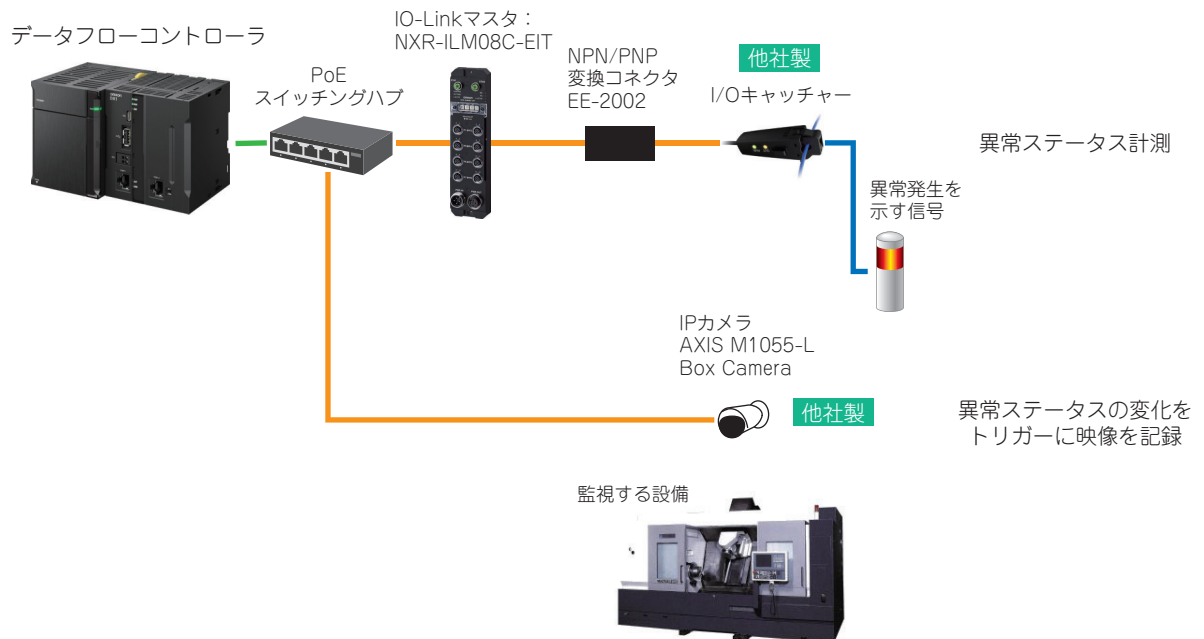


1-2 システム構成例

既存設備から異常信号を I/O キャッチャーで後付けしイベント入力とする場合は「システム構成 (1)」を、イベント入力を PLC 経由で入力する場合は「システム構成 (2)」を参照してください。

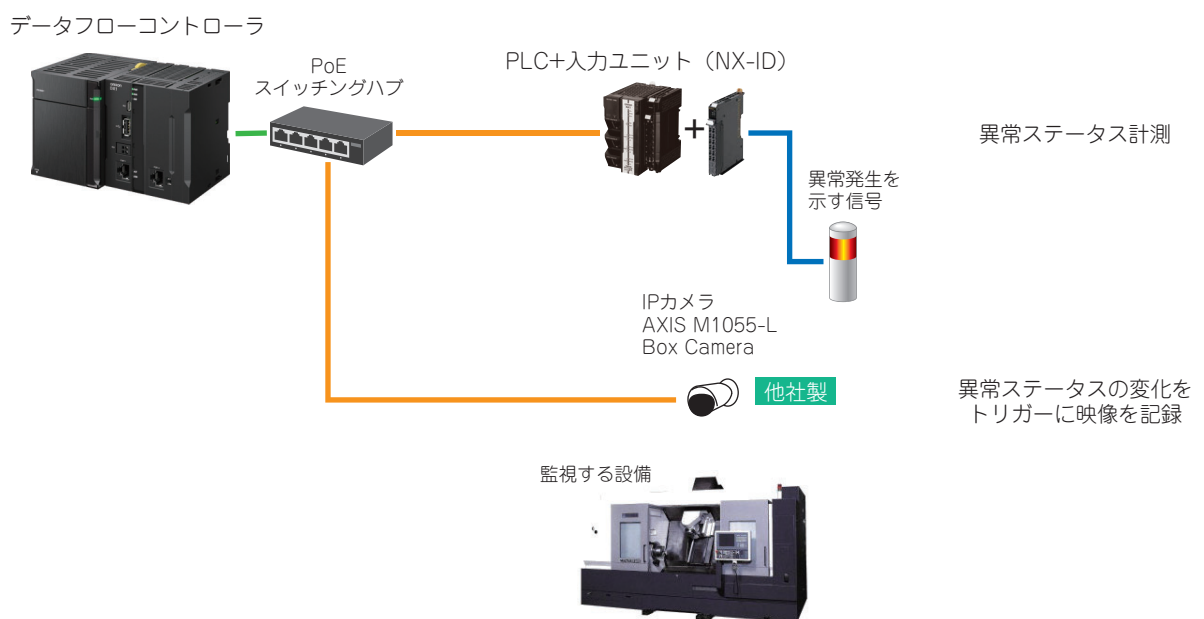
システム構成 (1)

各センサーの役割



システム構成 (2)

各センサーの役割



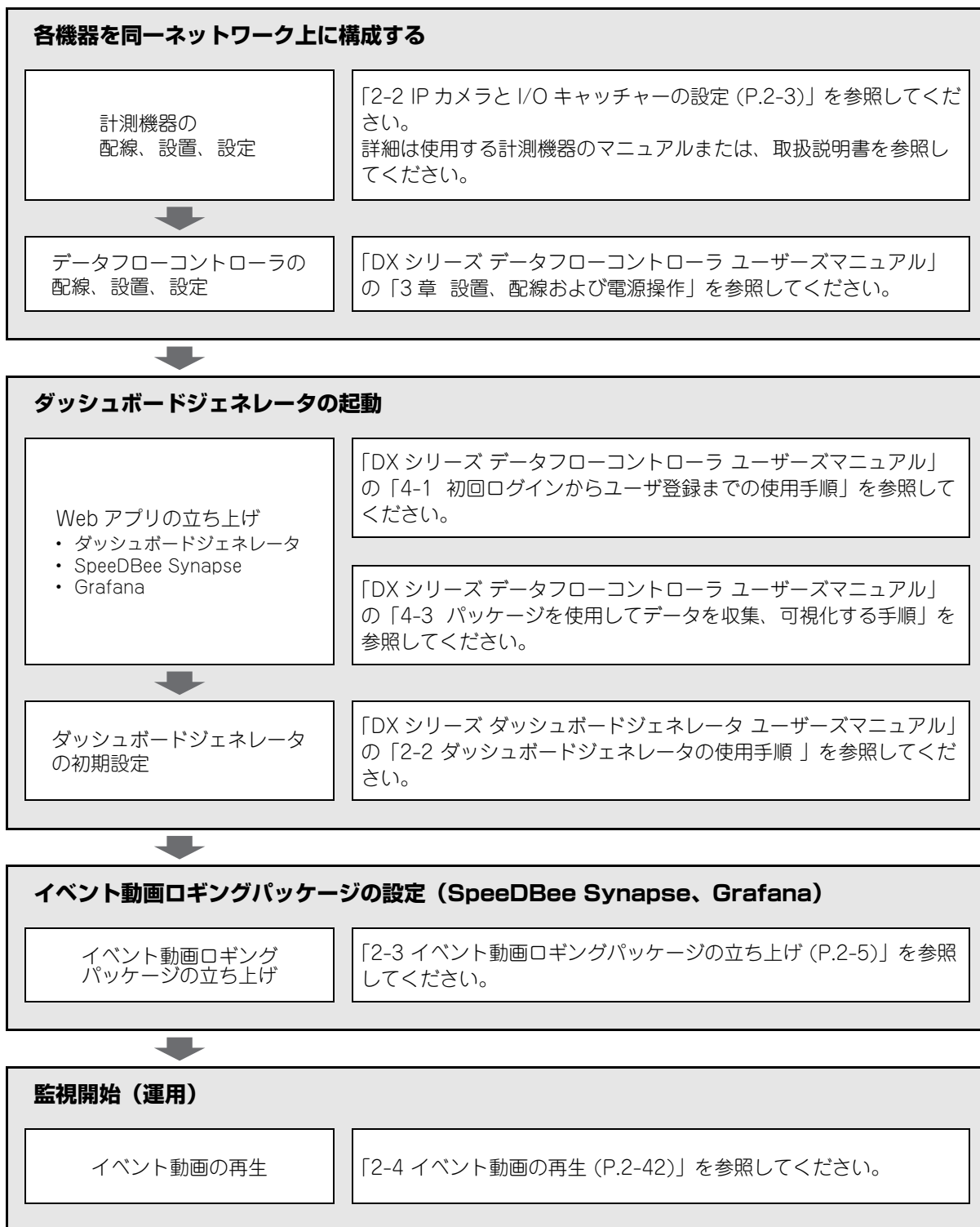
使用手順

本章では、イベント動画ロギングパッケージの使用手順について説明します。

2-1	全体チャート	2-2
2-2	IP カメラと I/O キャッチャーの設定	2-3
2-2-1	IP カメラの設定	2-3
2-2-2	IO-Link マスタの接続・設定	2-4
2-3	イベント動画ロギングパッケージの立ち上げ	2-5
2-3-1	設定手順 システム構成（1）の場合	2-6
2-3-2	設定手順 システム構成（2）の場合	2-21
2-4	イベント動画の再生	2-42

2-1 全体チャート

イベント動画ロギングパッケージを使うための全体チャートを示します。
機器の配線、設置、設定および各ソフトウェアの立ち上げは使用する機器のマニュアルおよび取扱説明書を参照してください。

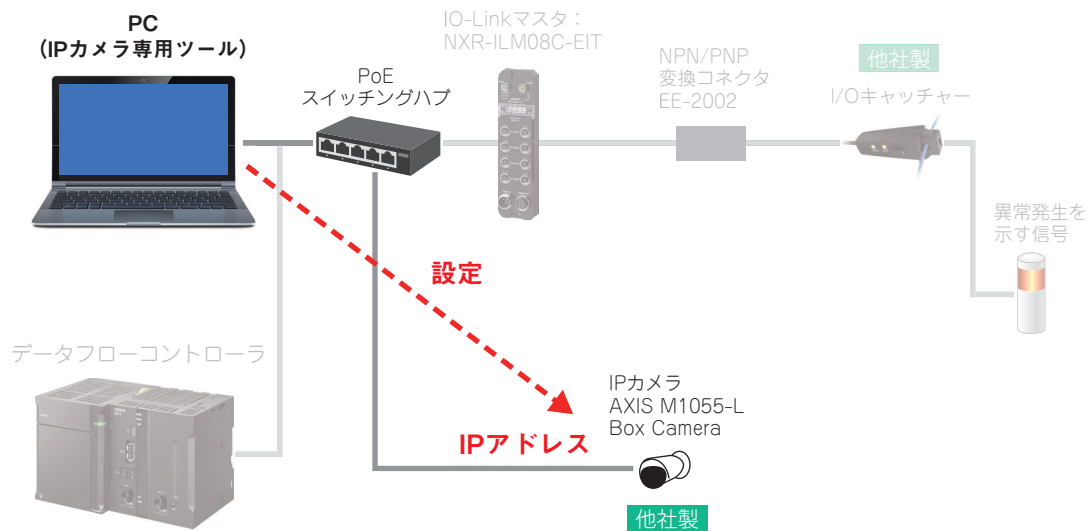


2-2 IPカメラとI/Oキャッチャーの設定

本章では、イベント動画ロギングパッケージに必要な構成となる IP カメラと I/O キャッチャーの設定手順を示します。

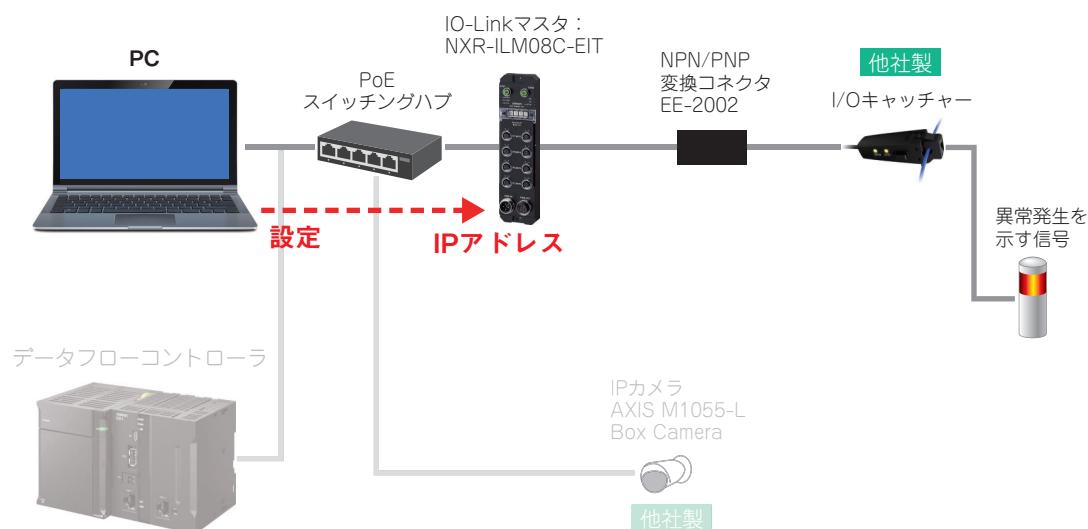
「1-2 システム構成例」の接続がされたことを前提に説明します。

2-2-1 IP カメラの設定



- 1 PoE スイッチングハブと IP カメラの電源を ON にし、PC を IP カメラに接続します。
- 2 PC から IP カメラ専用設定ツールで IP カメラの IP アドレスとユーザ名・パスワードを設定します。
IP カメラのマニュアルを参照し、以下の設定としてください。
IP アドレス： 192.168.250.xxx (xxx は他の機器と重ならない任意の値)
ユーザ名： root
パスワード： admin
- 3 必要な動画が撮れるように設置場所・角度を調整してください。

2-2-2 IO-Link マスタの接続・設定



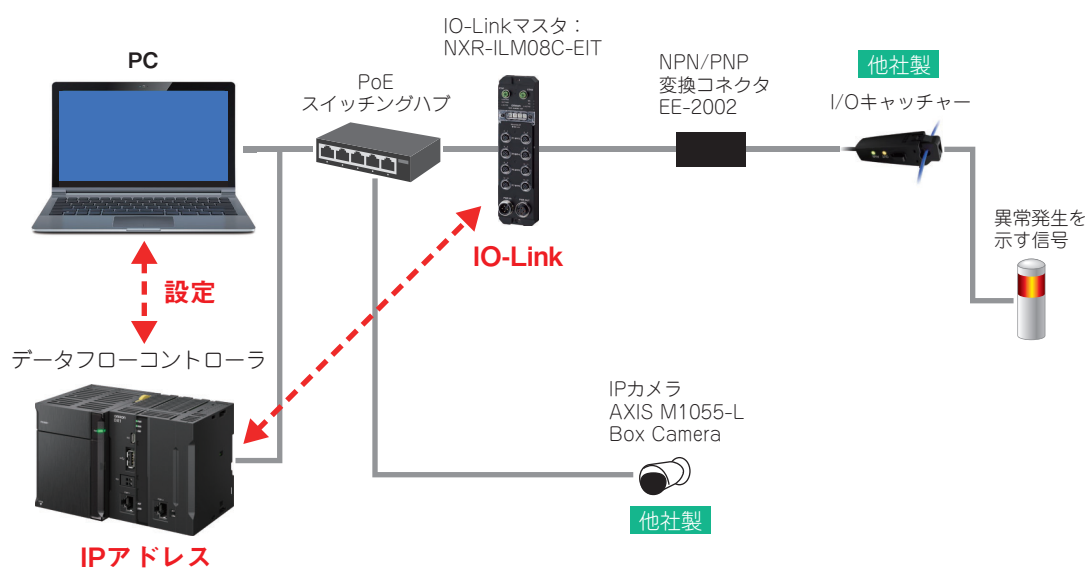
- 1** 直流センサ（I/O キャッチャー）を異常ステータスが出力される信号線にクランプします。
- 2** IO-Link マスタの電源を ON にし、PC と IO-Link マスタを接続します。
- 3** IO-Link マスタに IP アドレスの設定をします。
詳細は IO-Link マスタ（NXR-ILM08C-EIT）のユーザーズマニュアルを参照してください。

2-3 イベント動画ロギングパッケージの立ち上げ

ダッシュボードジェネレータのログインから SpeedBee Synapse、Grafana への設定反映までを手順は、「DX シリーズ ダッシュボードジェネレータ ユーザーズマニュアル」の「2-2 ダッシュボードジェネレータの使用手順」を参照してください。

本章は、「1-2 システム構成 (1)」の接続がされたことを前提に説明します。

本章では、データフローコントローラに接続される機器の IP アドレスを登録および設定する方法について説明します。



2-3-1 設定手順 システム構成（1）の場合

以下の順番で設定手順を説明します。

ダッシュボードジェネレータと Synapse、Grafana が連携できていることを前提として説明します。

設定順序	内容
デバイス一覧画面の設定	デバイススキャンを行います。 イベント動画ロギングパッケージで接続される機器情報を取得します。
パッケージ一覧画面の設定	イベント動画ロギングパッケージを選択し、登録するダッシュボードの設備識別情報、使用デバイスを指定します。 設定した内容でダッシュボード登録を実施します。
ダッシュボード一覧画面の設定 (Synapse 画面) (Grafana 画面)	Synapse を起動します。エラーマネージャー起動を起動します。 ・ イベント発生期間の設定 ・ エラーマネージャー起動 Grafana のダッシュボードからイベント動画を確認します。

デバイス一覧画面 – デバイススキャン

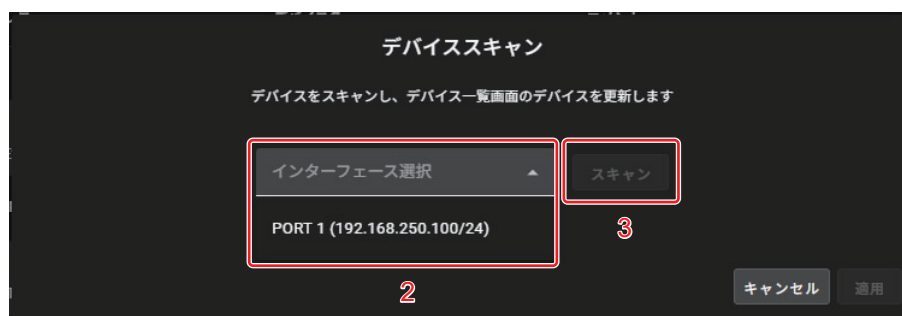
1 デバイス一覧画面の右上にある【デバイススキャン】をクリックします。

デバイススキャン画面が表示されます。



2 プルダウンメニューよりインターフェースを選択します。

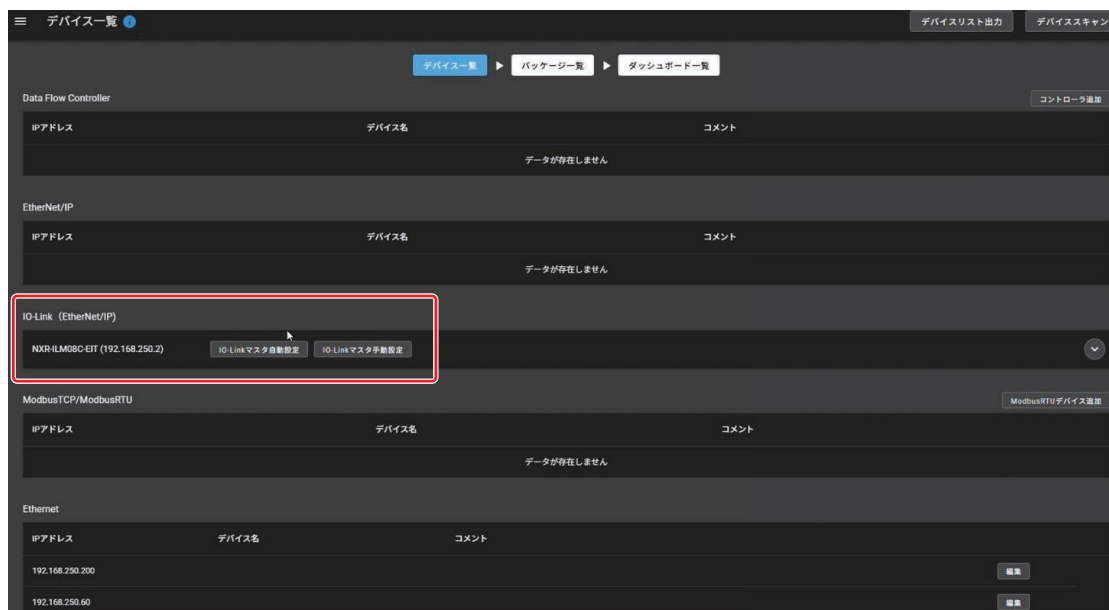
3 【スキャン】ボタンがアクティブになるのでクリックします。



4 スキャンされたデバイスが表示されます。[適用] ボタンをクリックします。



デバイス一覧に戻ります。デバイスが反映されたことを確認してください。
例ではIO-Link (Ethernet/IP) に「NXR-ILM08C-EIT (192.168.250.2)」が追加されます。



5 [IO-Link マスタ手動設定] ボタンをクリックします。

I/O キャッチャーの登録をしていきます。



6 I/O キャッチャーが接続されているポートを [SIO(DI) モード] に設定します。

例では IO-Link マスタのポート 1 に I/O キャッチャーが接続されています。

7 [設定] ボタンをクリックします。

IO-Link マスタ手動設定

接続中の IO-Link マスタのポート設定を手動で変更できます。デジタル I/O デバイスを使用する場合は、各ポートの Pin4 と Pin2 に対して、使用する通信モードを選択してください。

対象デバイス
NXR-ILM08C-EIT (192.168.250.14)

ポート	Pin4 / 通信モード設定	Pin2 / 通信モード設定
1	SIO(DI)モード	無効
2	IO-Linkモード	無効
3	IO-Linkモード	無効
4	IO-Linkモード	無効
5	IO-Linkモード	無効
6	IO-Linkモード	無効
7	IO-Linkモード	無効
8	IO-Linkモード	無効

キャンセル 設定

8 最下段の Ethernet にスキャンされた IP カメラの IP アドレスが表示されます。[編集] ボタンをクリックします。

例では “192.168.250.60” となっています。

デバイス一覧

デバイスリスト出力 デバイスキャン

Data Flow Controller

IPアドレス デバイス名 コメント

データが存在しません

EtherNet/IP

IPアドレス デバイス名 コメント

データが存在しません

IO-Link (EtherNet/IP)

NXR-ILM08C-EIT (192.168.250.2) ID-Link マスタ自動設定 ID-Link マスタ手動設定

ModbusTCP/ModbusRTU

IPアドレス デバイス名 コメント

データが存在しません

Ethernet

IPアドレス デバイス名 コメント

192.168.250.200 編集

192.168.250.60 編集

9 [デバイス種別] のプルダウンメニューで [Ethernet] を選択します。

10 [デバイス名] に任意の名称を入力します。

例では “IP カメラ” としています。

11 [保存] ボタンをクリックします。

デバイス一覧の画面に戻ります。

デバイス編集

デバイス種別を変更することで、他のデバイスリストに追加できます

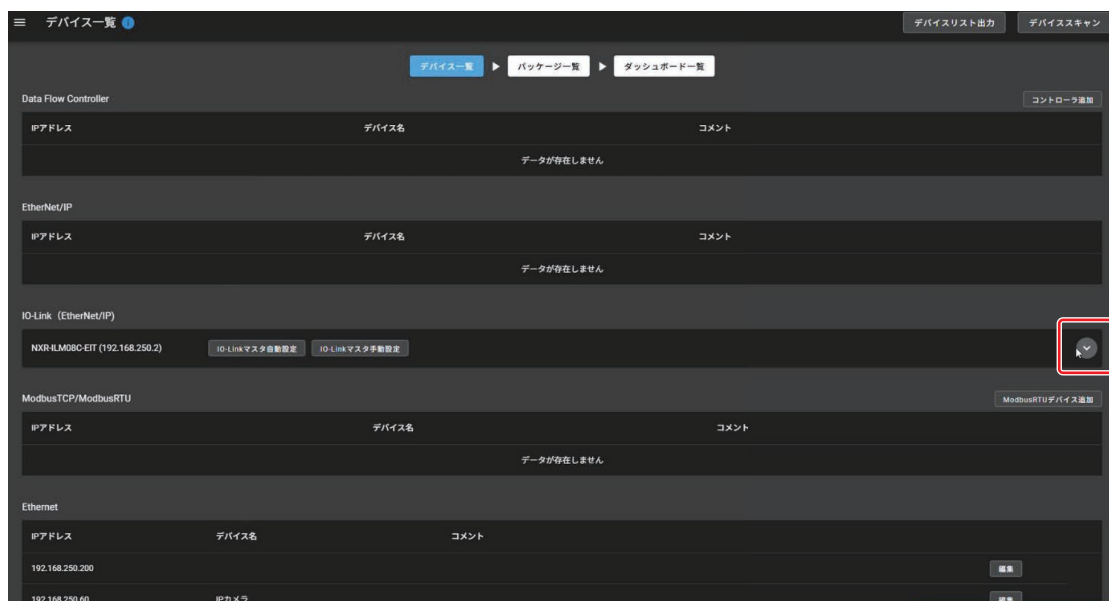
デバイス種別 9 Ethernet

デバイス名 10 IPカメラ

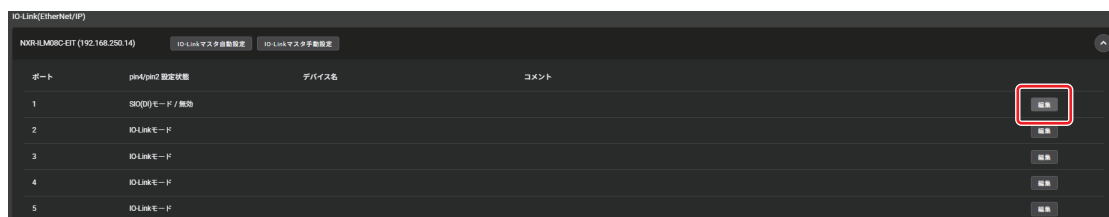
コメント

キャンセル 保存 11

12 [NXR-ILM08C-EIT (192.168.250.2)] の ▼ メニューをクリックします。



13 I/O キャッチャーを接続しているポートの [編集] ボタンをクリックします。



14 [デバイス名] に任意の名称を入力します。
例では “I/O キャッチャー” としています。

15 [保存] ボタンをクリックします。

パッケージ一覧画面 - ダッシュボードの登録

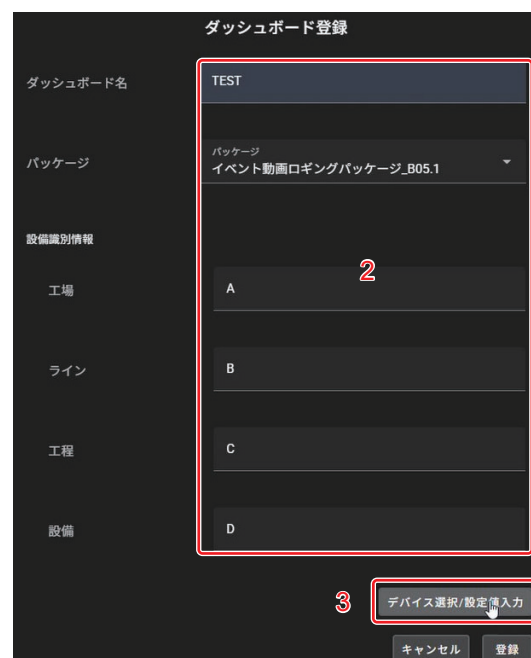
1 パッケージ一覧画面の右上にある [ダッシュボード登録] をクリックします。

ダッシュボード登録画面が表示されます。



2 ダッシュボード登録画面内の情報を設定します。

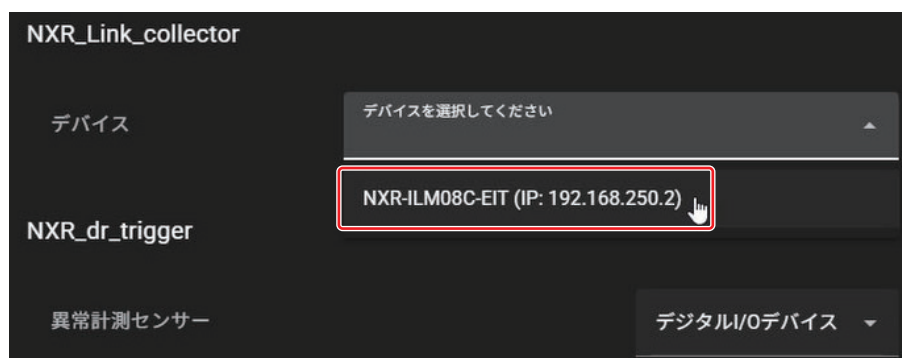
設定項目	説明
ダッシュボード名	任意の名称を入力します。 Synapse および Grafana で表示されます。 例では“TEST”としています。
パッケージ	「イベント動画ロギングパッケージ」を選択します。
設備識別情報	任意に入力できます。 工場名、ライン名、工程名、設備名



3 [デバイス選択/設定入力]ボタンがアクティブになったらクリックします。

デバイス選択 / 設定値入力 の設定画面が表示されます。

4 [デバイス] のプルダウンメニューより「NXR-ILM08C-EIT (IP: 192.168.250.2)」を選択します。



5 異常計測センサーの設定を[デジタルI/O デバイス]に設定します。

6 異常計測トリガーの設定をI/Oキャッチャーを接続しているポートに設定します。

例では「ポート1」を設定しています。

7 [設定] ボタンをクリックします。

ダッシュボード登録画面に戻ります。

8 [登録] ボタンをクリックします。

ダッシュボード登録確認画面が表示されます。

9 [登録] ボタンをクリックします。

ダッシュボードの登録には 30 秒ほど時間がかかります。

登録が完了するとダッシュボード一覧画面に遷移します。

ダッシュボード一覧画面 - Synapse 起動

- 1 ダッシュボード一覧画面の右上にある [SpeedBee Synapse] をクリックします。
Synapse 画面が表示されます。



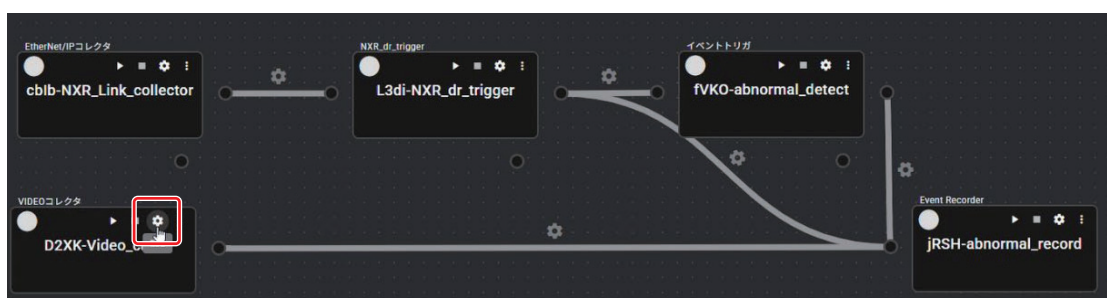
- 2 任意のダッシュボード名でパネルが追加されています。(例：“TEST”)
該当パネルの [DETAIL] をクリックします。
Synapse のコネクション画面に遷移します。



- 3 [RUN] を [Edit] に切り替えます。



- 4 [VIDEO コレクタ] コンポーネントの ⚙️ をクリックします。



5 [RTSP URL] の内容を IP カメラの IP アドレスに合わせて変更します。

例では以下の変更をしています。

rtsp://root:admin@192.168.250.67/axis-media/media.amp



rtsp://root:admin@192.168.250.60/axis-media/media.amp

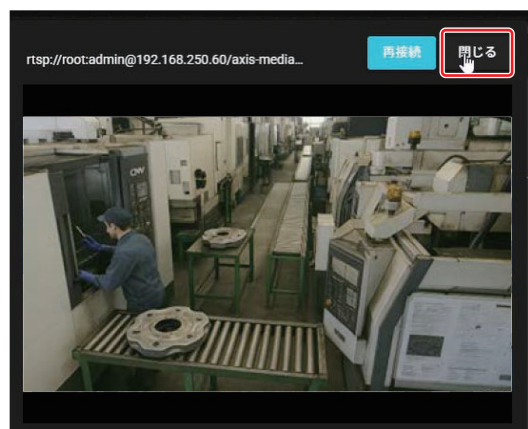
6 [テスト] ボタンをクリックします。

カメラが起動します。

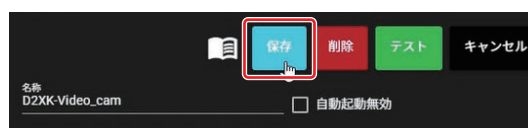


7 [閉じる] ボタンをクリックします。

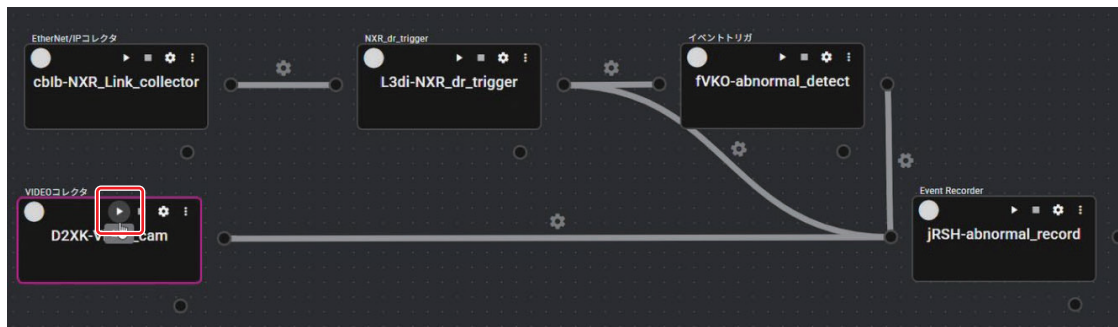
前の画面に戻ります。



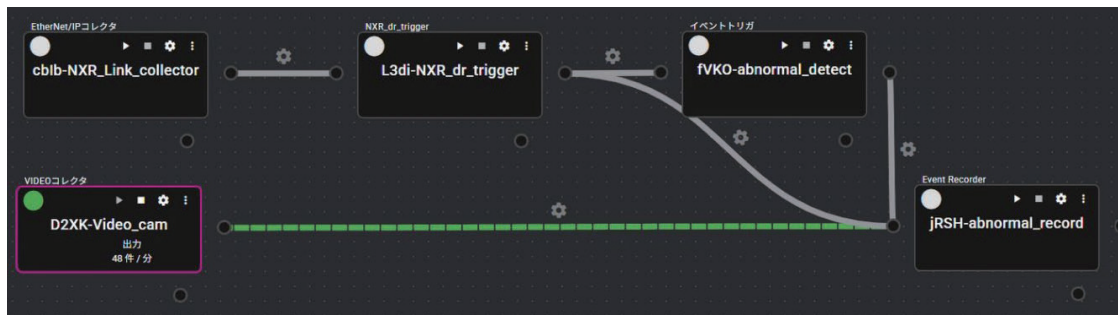
8 [保存] ボタンをクリックします。



9 「VIDEO コレクタ」コンポーネントの ▶ をクリックします。

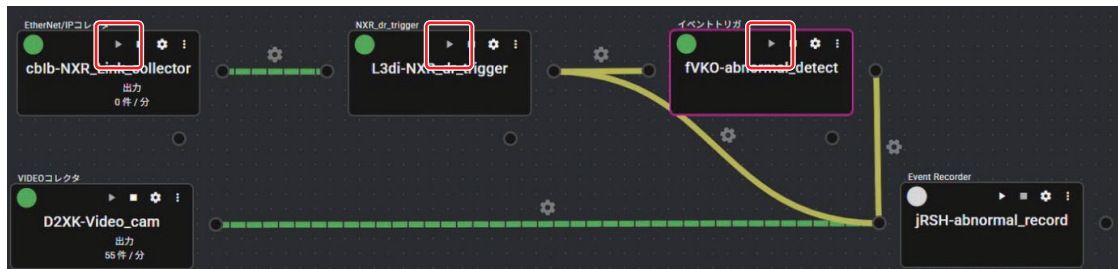


しばらく待つとフローリンクが黄色から緑色となります。

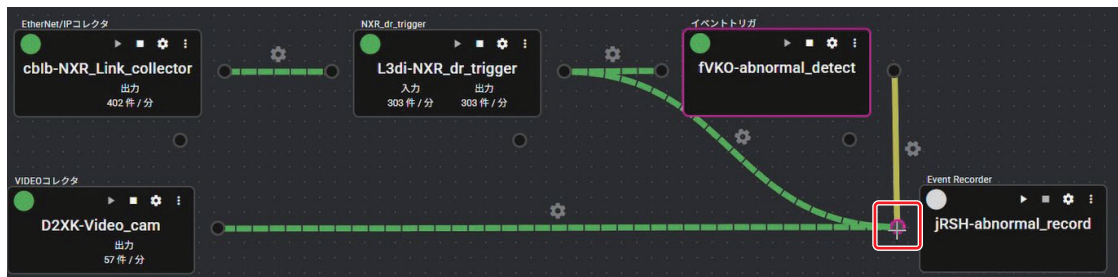


10 次の3つのコンポーネントの ▶ をクリックします。

[EtherNet/IP コレクタ]、[NXR_dr_trigger]、[イベントトリガ]



11 [Event Recorder] コンポーネントの入力ポート ● を右クリックします。



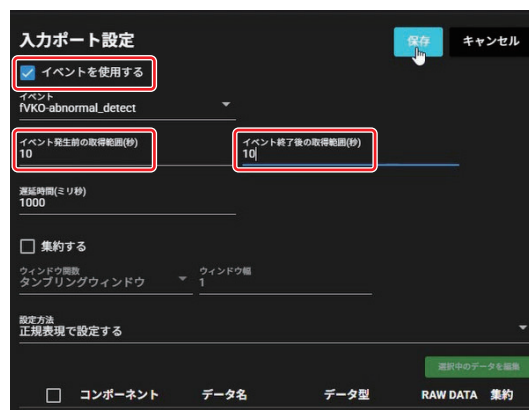
12 入力ポート設定の設定をします。

☒ イベントを使用する

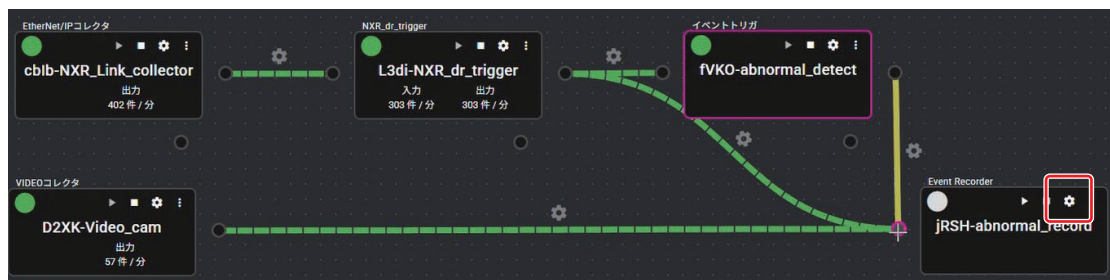
- ・ イベント発生前の取得範囲 (秒) :
必要に応じて修正します。(例: 10 秒)
- ・ イベント発生後の取得範囲 (秒) :
必要に応じて修正します。(例: 10 秒)

イベント発生と録画の間にはタイムラグがあるため、開始イベントの手前の時間を長めに設定します。具体的には、実際に録画したい時間に加えて約 3 秒程度を追加してください。

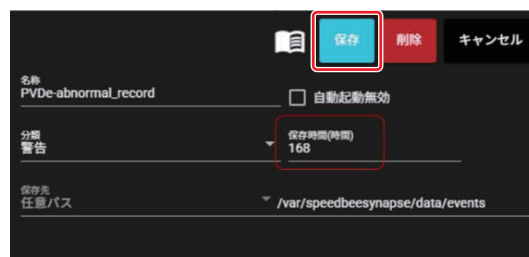
設定が完了したら「保存」をクリックします。



13 [Event Recorder] コンポーネントの⚙️をクリックします。



初期状態では 168 時間 (1 週間) となっています。必要に応じて修正し、「保存」をクリックします。





使用上の注意

■データ保存先について

必ず、2GB 以上のメモリ容量を持つ外部 USB メモリをご使用ください。データフローコントローラの内部メモリでは容量が不足するため、イベント動画を保存できなくなります。設定手順は「DX シリーズ ダッシュボードジェネレータ ユーザーズマニュアル」の「2-5 データ保存先の変更」をご参照ください。

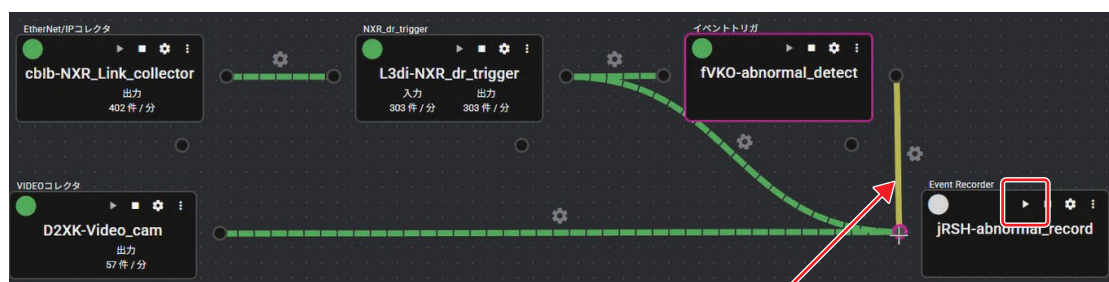
■イベントトリガの信号極性

イベントトリガの信号極性は、初期設定では立上り（OFF → ON）となっています。極性を変えたい場合は、[イベントトリガ] コンポーネントの設定を変更します。

立下り（ON → OFF）にしたい場合、開始イベントの条件式を「\$VALUE=0」とします。設定を保存したあと [イベントトリガ] コンポーネントの  停止 →  起動をクリックしてください。



14 [Event Recorder] コンポーネントの をクリックします。



黄色フローリンクはI/Oキャッチャーのイベント発生時に緑色になります。

15 左上の[システム]タブをクリックします。(エラーマネージャーの設定)

「システム」のパネルが表示されます。

**16** 「エラーマネージャー」コンポーネントの▶(起動) ボタンをクリックします。

エラーマネージャーが起動されます。



※ エラーマネージャーは Grafana が Synapse のデータを手入する際に必要な設定です。

ダッシュボード一覧画面 - Grafana 起動

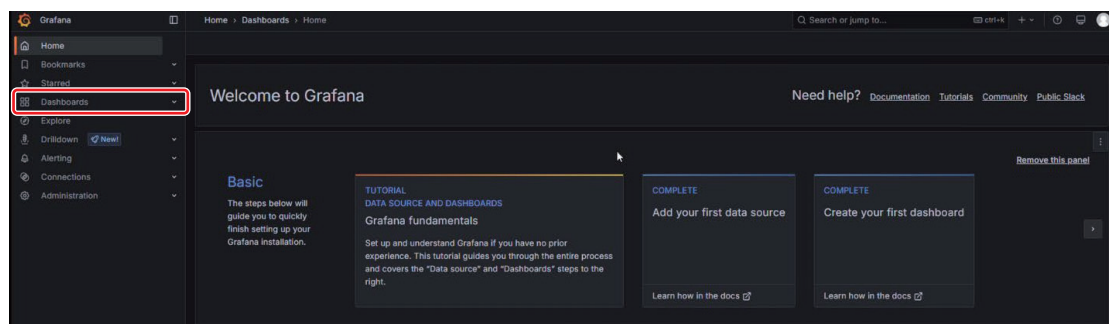
- 1 Synapse の画面で右上にあるグラフのアイコンをクリックします。

Grafana 画面が表示されます。

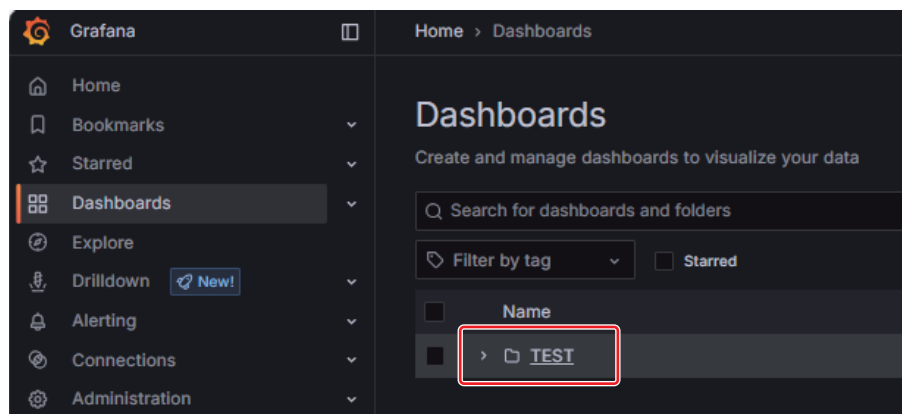


- 2 「Dashboards」をクリックします。

画面が切り替わります。

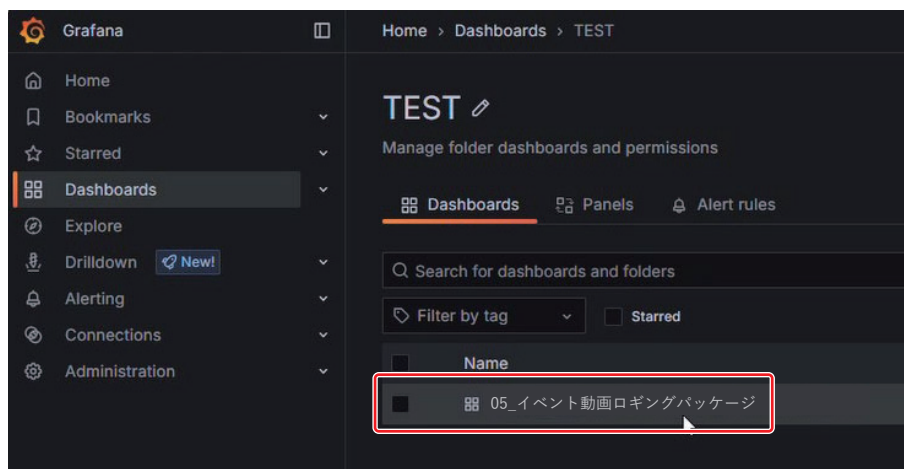


- 3 任意のダッシュボード名が追加されているのでクリックします。(例：“TEST”)



4 「イベント動画ロギングパッケージ」をクリックします。

画面が切り替わります。

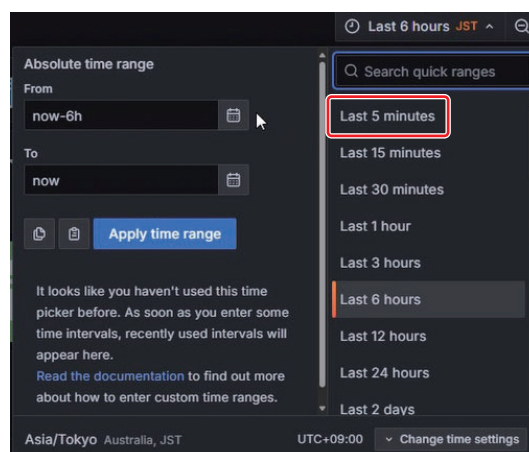


5 KPI がグラフに表示されます。グラフの横軸（期間）を変更するには「Last 1 hour JST」のプルダウンメニューから変更します。

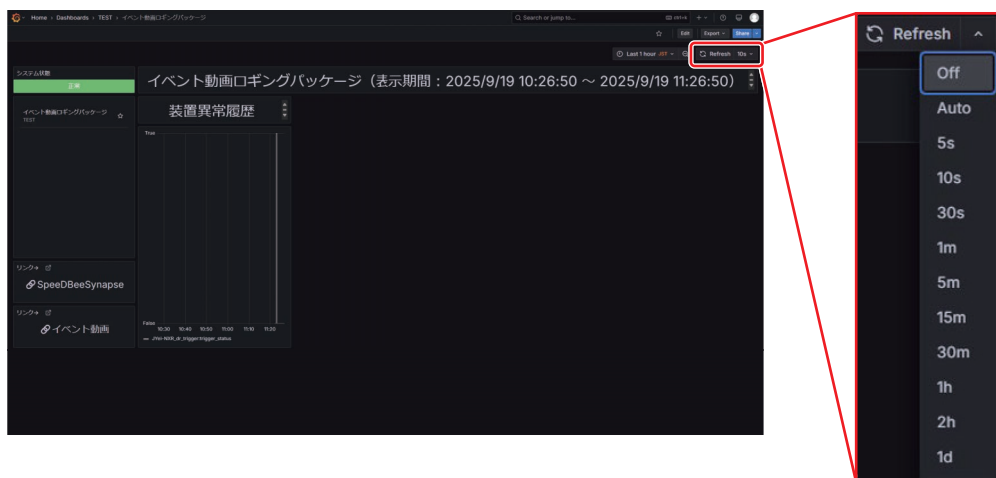


例では「Last 5 minutes」を選択します。

※ グラフの縦軸（数値）は入手データの範囲で自動的にスケール変更されます。



- 6** 横軸（期間）変更されたグラフが表示されます。
データ更新の頻度は右上 [Refresh] をクリックします。
プルダウンメニューより頻度を選択します。



2-3-2 設定手順 システム構成 (2) の場合

以下の順番で設定手順を説明します。

ダッシュボードジェネレータと Synapse、Grafana が連携できていることを前提として説明します。

設定順序	内容
NX-OD（出力ユニット）の設定	制御 PLC から異常ステータスの信号を発報機へ出力するシステムを前提に説明します。本章では、制御 PLC の出力ユニットとして NX-OD としています。Sysmac Studio で NX-OD の変数をグローバル変数で定義し、ネットワーク公開します。異常ステータスの信号をデータフローコントローラに紐づけるために必要です。
	
デバイス一覧画面の設定	デバイススキャンを行います。 イベント動画ロギングパッケージで接続される機器情報を取得されます。
	
パッケージ一覧画面の設定 *	イベント動画ロギングパッケージを選択し、登録するダッシュボードの設備識別情報、使用デバイスを指定します。 設定した内容でダッシュボード登録を実施します。
	
ダッシュボード一覧画面の設定 (Synapse 画面) (Grafana 画面)	Synapse を起動します。エラーマネージャーを起動します。 ・ イベント発生期間の設定 ・ エラーマネージャー起動 Grafana のダッシュボード（グラフ）を起動します。

NX-OD（出力ユニット）の設定

マシンオートメーションコントローラ NX シリーズの基本的な設定は省略して説明します。

NX-OD の I/O マップ設定で変数を追加する部分を説明します。

既存の PLC で発報機を制御する異常ステータスの変数名がわかっており、グローバル変数かつネットワーク公開の設定になっている場合は以下の手順は不要です。

- 1 Sysmac Studio にて異常ステータスの信号を出力する NX-OD の I/O マップを表示します。**
オフラインにして編集します。

2 異常ステータスを出力する[変数名]と[編集種別]を確認します。

例では出力接点 00 に異常ステータス信号線が出力されていると仮定しています。
変数名は “Ch1Output” としています。変数種別を “グローバル変数” に設定します。

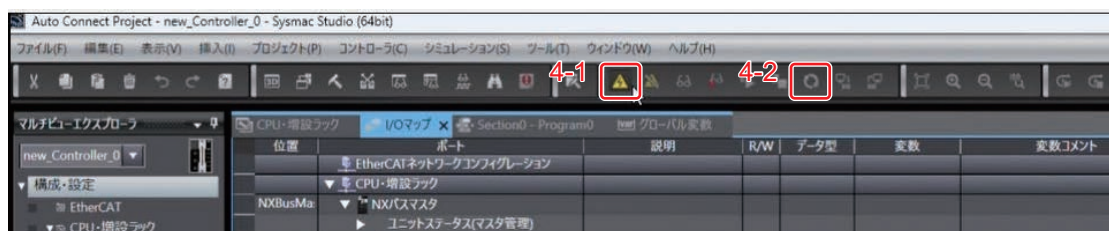
位置	ポート	説明	R/W	データ型	変数	変数コメント	変数種別
EtherCATネットワークコンフィグレーション							
CPU-増設ラック							
NXBusMa: NXバスマスタ							
Unit1: ユニットステータス(マスタ管理)							
Unit2: NX-PF0730							
Unit3: NX-ID5342							
Input Bit 16 bits (入力接点(16点))							
	Input Bit 00	入力接点00	R	WORD	Ch1Input		グローバル変数
	Input Bit 01	入力接点01	R	BOOL			
	Input Bit 02	入力接点02	R	BOOL			
	Input Bit 03	入力接点03	R	BOOL			
	Input Bit 04	入力接点04	R	BOOL			
	Input Bit 05	入力接点05	R	BOOL			
	Input Bit 06	入力接点06	R	BOOL			
	Input Bit 07	入力接点07	R	BOOL			
	Input Bit 08	入力接点08	R	BOOL			
	Input Bit 09	入力接点09	R	BOOL			
	Input Bit 10	入力接点10	R	BOOL			
	Input Bit 11	入力接点11	R	BOOL			
	Input Bit 12	入力接点12	R	BOOL			
	Input Bit 13	入力接点13	R	BOOL			
	Input Bit 14	入力接点14	R	BOOL			
	Input Bit 15	入力接点15	R	BOOL			
Unit3: NX-OD5121							
Output Bit 16 bits (出力接点(16点))							
	Output Bit 00	出力接点00	W	WORD	Ch1Output		グローバル変数
	Output Bit 01	出力接点01	W	BOOL			
	Output Bit 02	出力接点02	W	BOOL			
	Output Bit 03	出力接点03	W	BOOL			
	Output Bit 04	出力接点04	W	BOOL			
	Output Bit 05	出力接点05	W	BOOL			
	Output Bit 06	出力接点06	W	BOOL			
	Output Bit 07	出力接点07	W	BOOL			
	Output Bit 08	出力接点08	W	BOOL			
	Output Bit 09	出力接点09	W	BOOL			
	Output Bit 10	出力接点10	W	BOOL			

3 異常ステータスを出力する変数 “Ch1Output” のネットワーク公開を “公開のみ” に設定します。

左側のタブより、[プログラミング] → [データ] → [グローバル変数] で設定画面が開きます。

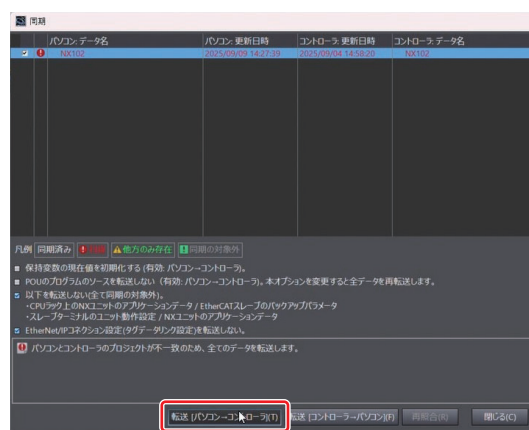
名称	データ型	初期値	配付先	保持	コンスタント	ネットワーク公開	コメント
Ch1Input	BOOL		IOBus//unit#2	☐	☐	非公開	
Ch1Output	BOOL		IOBus//unit#2	☐	☐	公開のみ	

4 オンラインにして同期します。

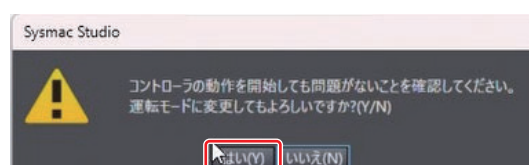


5 [転送[パソコン→コントローラ]]をクリックします。

プログラムが転送されます。



6 運転モードに変更するメッセージが表示されたら、“はい”をクリックします。

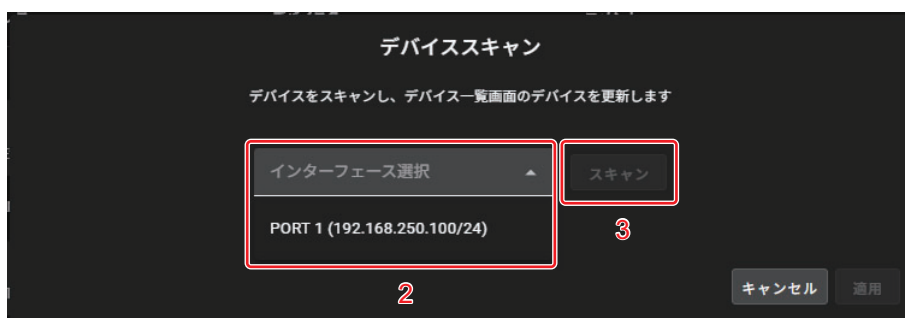


デバイス一覧画面 - デバイススキャン

- 1 デバイス一覧画面の右上にある【デバイススキャン】をクリックします。
デバイススキャン画面が表示されます。



- 2 プルダウンメニューよりインターフェースを選択します。
- 3 【スキャン】ボタンがアクティブになるのでクリックします。



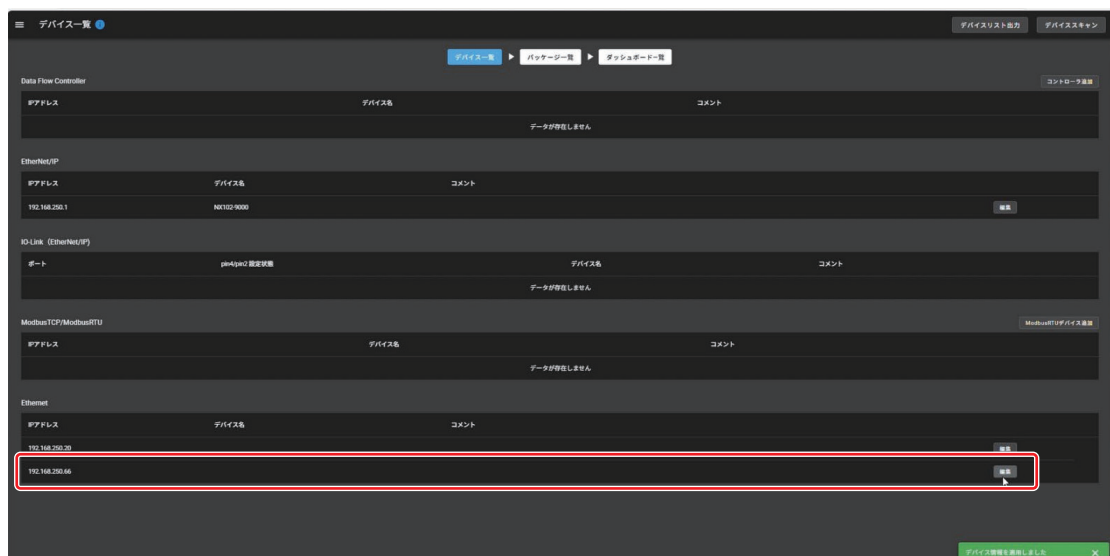
- 4 スキャンされたデバイスが表示されます。【適用】ボタンをクリックします。



デバイス一覧に戻ります。デバイスが反映されたことを確認してください。
例では Ethernet/IP に「NX102-9000」が追加されます。
また最下段の Ethernet にスキャンされた IP カメラの IP アドレスが表示されます。

- 5** 最下段のEthernet にスキャンされたIP カメラのIP アドレスが表示されている行の[編集] ボタンをクリックします。

例では“192.168.250.66” となっています。



- 6** [デバイス種別] のプルダウンメニューで [Ethernet] を選択します。

- 7** [デバイス名] に任意の名称を入力します。
例では“IP カメラ” としています。

- 8** [保存] ボタンをクリックします。
デバイス一覧の画面に戻ります。



パッケージ一覧画面 - ダッシュボードの登録

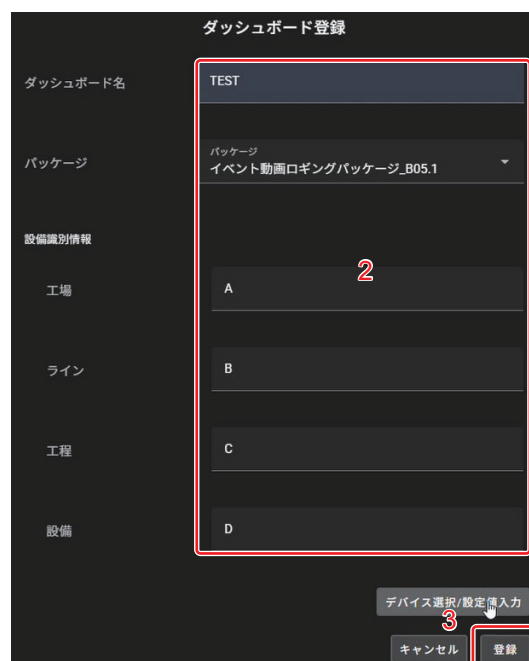
1 パッケージ一覧画面の右上にある [ダッシュボード登録] をクリックします。

ダッシュボード登録画面が表示されます。



2 ダッシュボード登録画面内の情報を設定します。

設定項目	説明
ダッシュボード名	任意の名称を入力します。 Synapse および Grafana で表示されます。 例では“TEST”としています。
パッケージ	「イベント動画ロギングパッケージ」を選択します。
設備識別情報	任意に入力できます。 工場名、ライン名、工程名、設備名



3 [登録] ボタンをクリックします。

ダッシュボード登録確認画面が表示されます。

4 [登録] ボタンをクリックします。

ダッシュボードの登録には 30 秒ほど時間がかかります。

登録が完了するとダッシュボード一覧画面に遷移します。



ダッシュボード一覧画面 - Synapse 起動

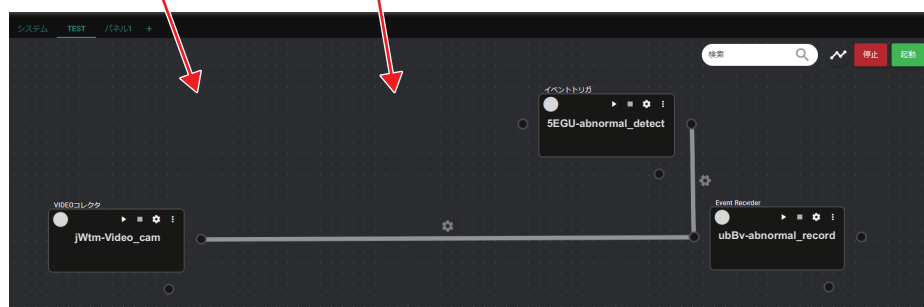
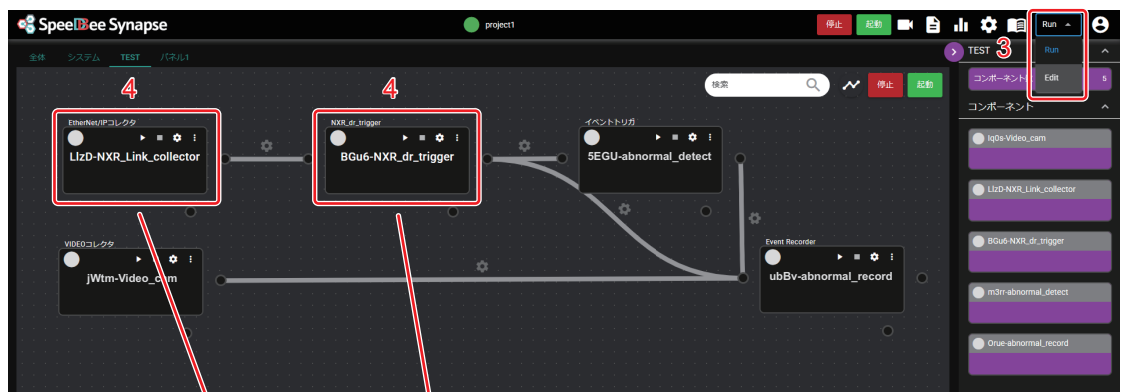
- 1 ダッシュボード一覧画面の右上にある [SpeedBee Synapse] をクリックします。
Synapse 画面が表示されます。



- 2 任意のダッシュボード名でパネルが追加されています。(例: “TEST”) 該当パネルの [DETAIL] をクリックします。
Synapse のコネクション画面に遷移します。



- 3 [RUN] を [Edit] に切り替えます。
- 4 [EtherNet/IP コレクタ] コンポーネントと [NXR_dr_trigger] コンポーネントを削除します。

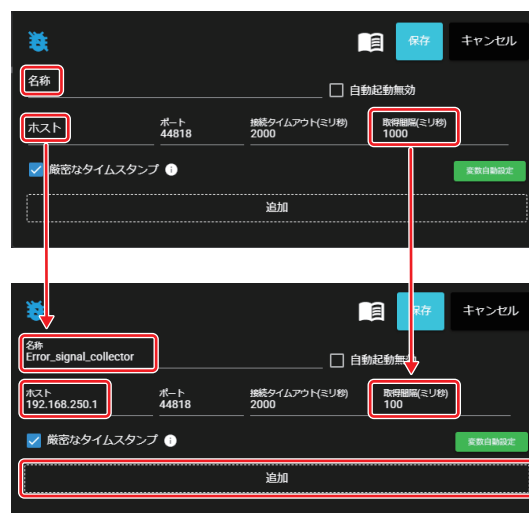


5 左側のタブより [EtherNet/IP コレクタ] を選択し設置します。



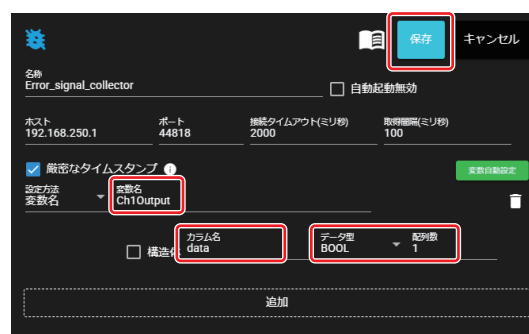
6 設置した [EtherNet/IP コレクタ] を設定します。

項目	説明
名称	コンポーネントの名称です。 例：“Error_signal_collector”
ホスト	ホストとなる IP アドレスです。 NX102-9000 の IP アドレスを設定します。 例：192.168.250.1
取得間隔	データ取得の間隔です。 100ms に設定します。

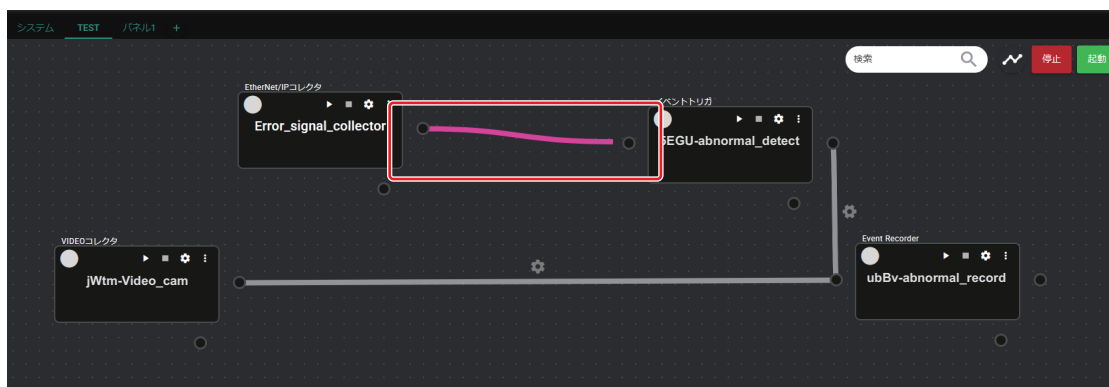


7 [追加] ボタンをクリックし、さらに設定します。設定後 [保存] ボタンをクリックします。

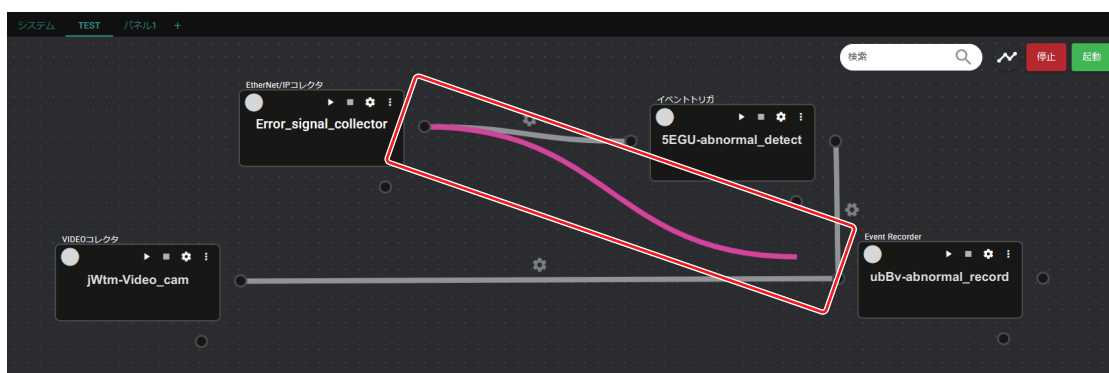
項目	説明
変数名	NX-OD の変数を設定します。 例：“Ch1Output”
カラム名	取得カラム名です。 例：“data”
データ型・配列数	変数の Ch1Output のデータ型を設定します。 例：BOOL、1



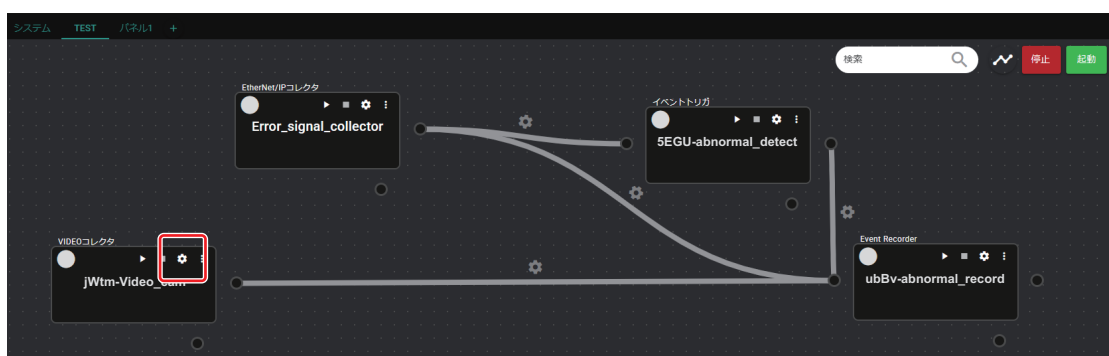
- 8 作成したコンポーネントの右側 ● (出力) からフローリンクを [イベントトリガ] コンポーネントの左側 ● (入力) に接続します。



- 9 続いて作成したコンポーネントの右側 ● (出力) からフローリンクを [Event Recorder] コンポーネントの左側 ● (入力) にも接続します。



- 10 [VIDEO コレクタ] コンポーネントの ⚙️ をクリックします。



- 11 [RTSP URL] の内容を IP カメラの IP アドレスに合わせて変更します。

例では以下の変更をしています。

rtsp://root:admin@192.168.250.67/axis-media/media.amp



rtsp://root:admin@192.168.250.60/axis-media/media.amp

12 [テスト] ボタンをクリックします。

カメラが起動します。

名称
jWtm-Video_cam

☐ 自動起動無効

保存先
プロジェクト: /opt/speedbeesynapse-... data/video/camera1

保存時間
1

タイムアウト(ms)
10000

プロトコル
TCP

RTSP URL
rtsp://root:admin@192.168.250.67/axis-media/media.amp

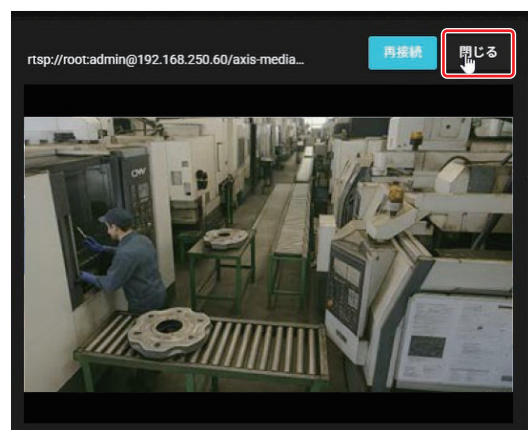
☐ MP4を出力する

録画間隔(秒)
30

RTSP URL
rtsp://root:admin@192.168.250.60/axis-media/media.amp

13 [閉じる] ボタンをクリックします。

前の画面に戻ります。

**14** [保存] ボタンをクリックします。

名称
Iq0s-Video_cam

☐ 自動起動無効

15 4つのコンポーネントの▶をクリックします。



しばらく待つとフローリンクが黄色から緑色となります。



16 [EtherNet/IP コレクタ] コンポーネントの出力ポート●を右クリックします。

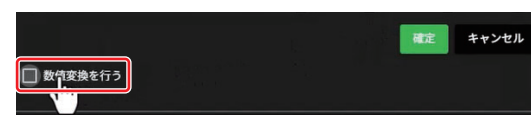


17 出力ポート設定の設定をします。

数値変換のバーをクリックします。



[数値変換を行う]をクリックします。



[変更後の型] を「INT8」に設定します。

設定後に [確定] をクリックします。



[保存] をクリックします。



18 [イベントトリガ] コンポーネントの  をクリックします。



19 コンポーネントの設定で Ethernet/IP コレクタで付けた名称を設定します。
設定後は [保存] ボタンをクリックします。

例では手順 5 で設定したコンポーネントの名称 “Error_signal_collector” を設定しています。





使用上の注意

■ イベントトリガの信号極性

イベントトリガの信号極性は、初期設定では立上り（OFF → ON）となっています。極性を変えたい場合は、[イベントトリガ] コンポーネントの設定を変更します。

立下り（ON → OFF）にしたい場合、開始イベントの条件式を「\$VALUE=0」とします。設定を保存したあと [イベントトリガ] コンポーネントの  停止 →  起動をクリックしてください。

名称: s5BZ-abnormal_detect ☐ 自動起動無効

同一イベントを監視する時間(秒): 0 基本記録時間(分): 0

開始イベント
設定方法: データ定義を受信して設定する

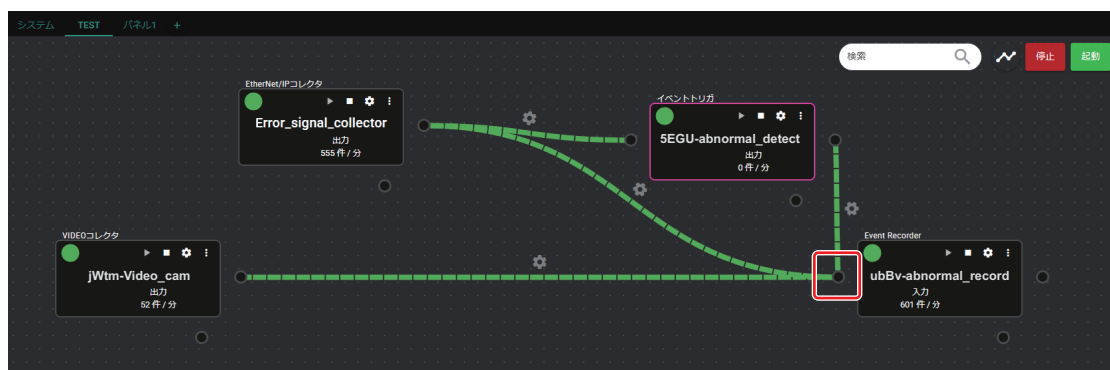
コンポーネント	データ名	トリガ名	条件種別	条件式
TcVB-NXR_dr_trigger	trigger_status	trigger	Raise	\$VALUE=1

ページあたりの件数: 10 1-1 / 1

追加

終了イベント ☐ 終了イベントを設定する

20 [Event Recorder] コンポーネントの入力ポート  を右クリックします。



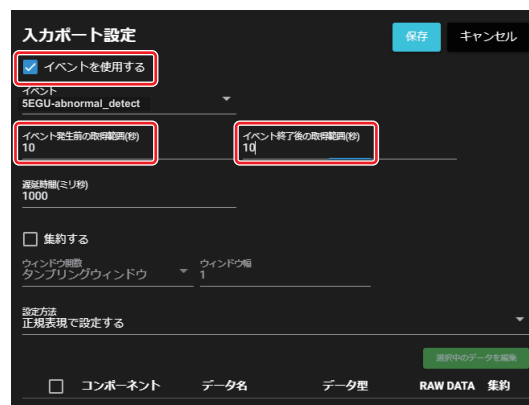
21 入力ポート設定の設定をします。

☒ イベントを使用する

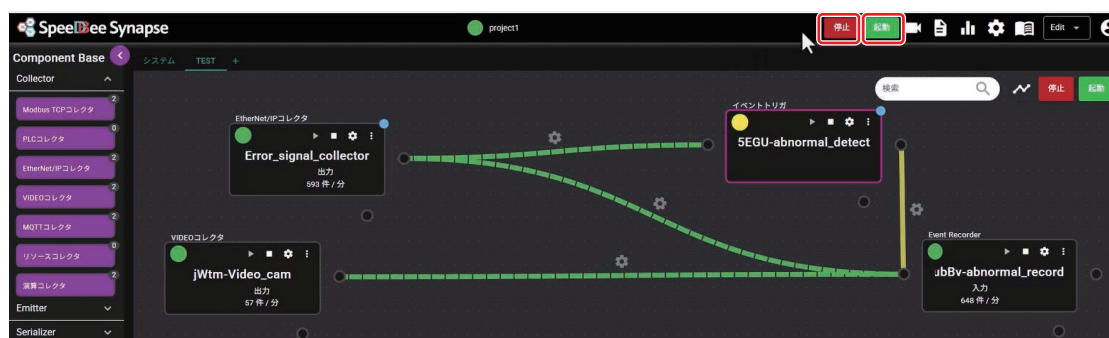
- ・ イベント発生前の取得範囲（秒）：
必要に応じて修正します。（例：10 秒）
- ・ イベント発生後の取得範囲（秒）：
必要に応じて修正します。（例：10 秒）

イベント発生と録画の間にはタイムラグがあるため、開始イベントの手前の時間を長めに設定します。具体的には、実際に録画したい時間に加えて約 3 秒程度を追加してください。

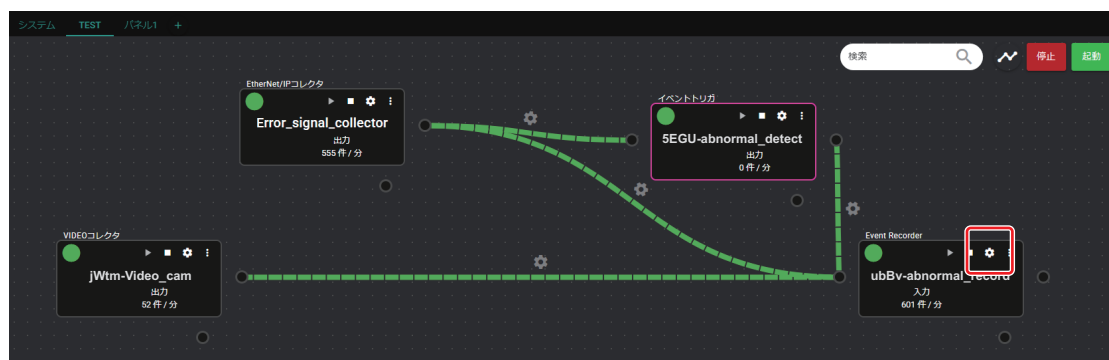
設定が完了したら「保存」をクリックします。



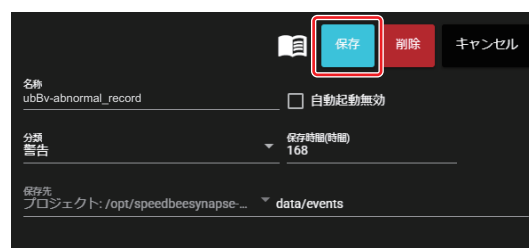
22 [停止] ボタンをクリックした後、[起動] ボタンをクリックして再起動します。



23 [Event Recorder] コンポーネントの⚙️をクリックします。



初期状態では 168 時間（1 週間）となっています。必要に応じて修正し、「保存」をクリックします。





使用上の注意

■データ保存先について

必ず、2GB 以上のメモリ容量を持つ外部 USB メモリをご使用ください。データフローコントローラの内部メモリでは容量が不足するため、イベント動画を保存できなくなります。設定手順は「DX シリーズ ダッシュボードジェネレータ ユーザーズマニュアル」の「2-5 データ保存先の変更」をご参照ください。

24 [Event Recorder] コンポーネントの ▶ をクリックします。



25 [起動] ボタンをクリックします。



26 左上の [システム] タブをクリックします。(エラーマネージャーの設定)

「システム」のパネルが表示されます。



27 「エラーマネージャー」コンポーネントの▶（起動）ボタンをクリックします。



エラーマネージャーが起動されます。



※ エラーマネージャーは Grafana が Synapse のデータを入手する際に必要な設定です。

ダッシュボード一覧画面 - Grafana 起動

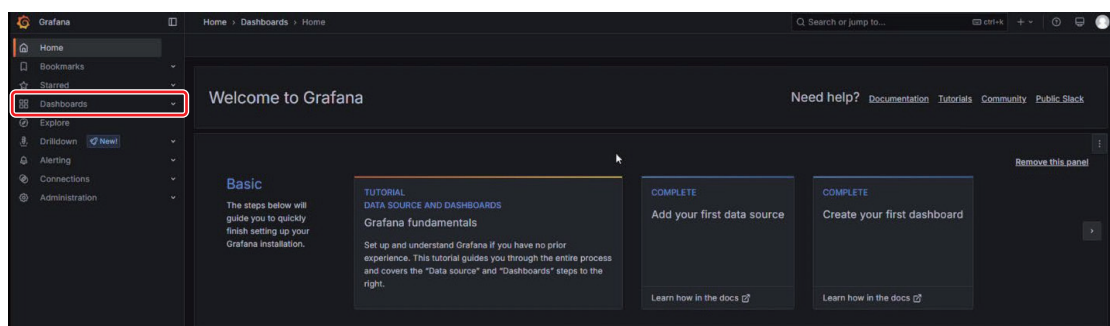
- 1 Synapse の画面で右上にあるグラフのアイコンをクリックします。

Grafana 画面が表示されます。

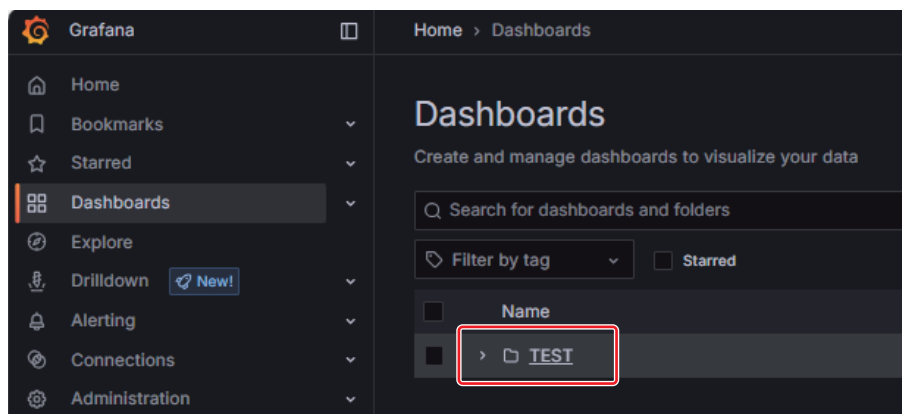


- 2 「Dashboards」をクリックします。

画面が切り替わります。

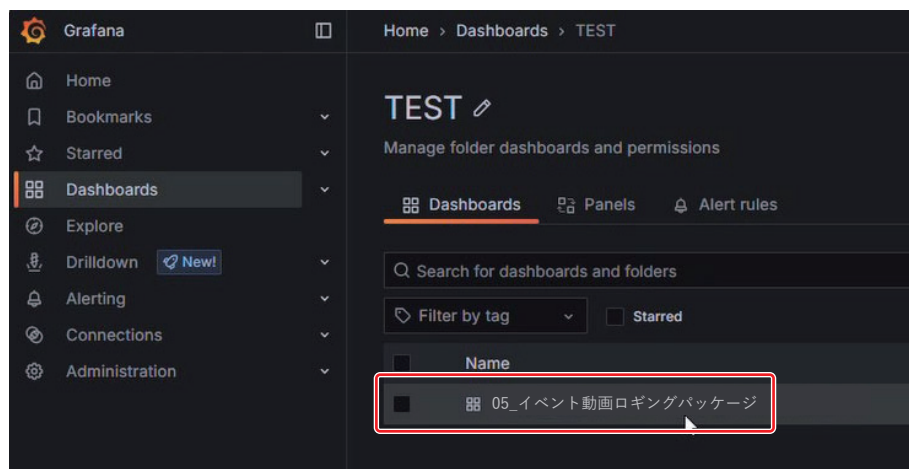


- 3 任意のダッシュボード名が追加されているのでクリックします。(例：“TEST”)

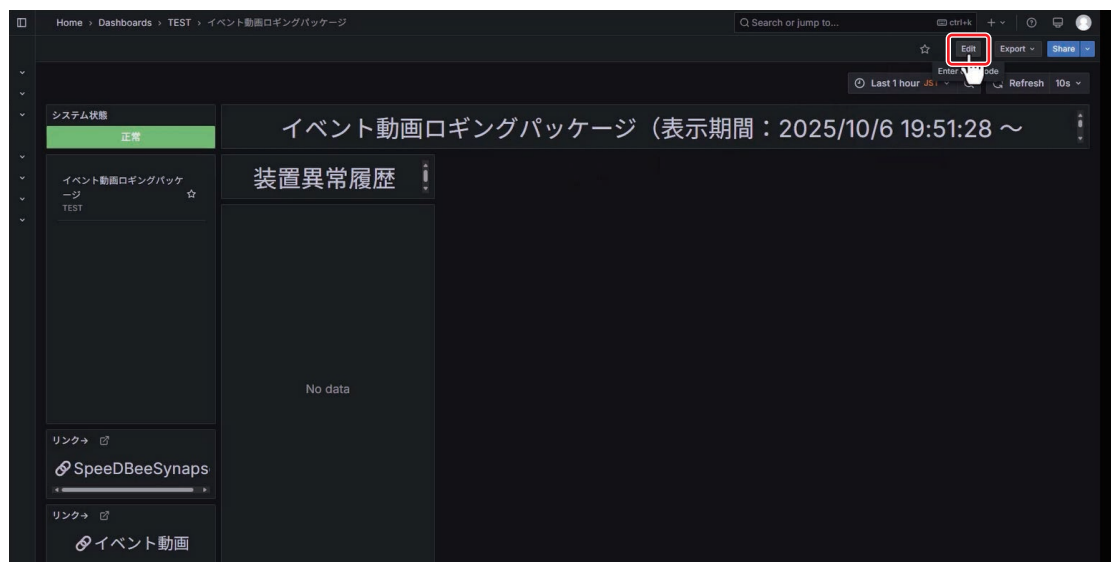


4 「イベント動画ロギングパッケージ」をクリックします。

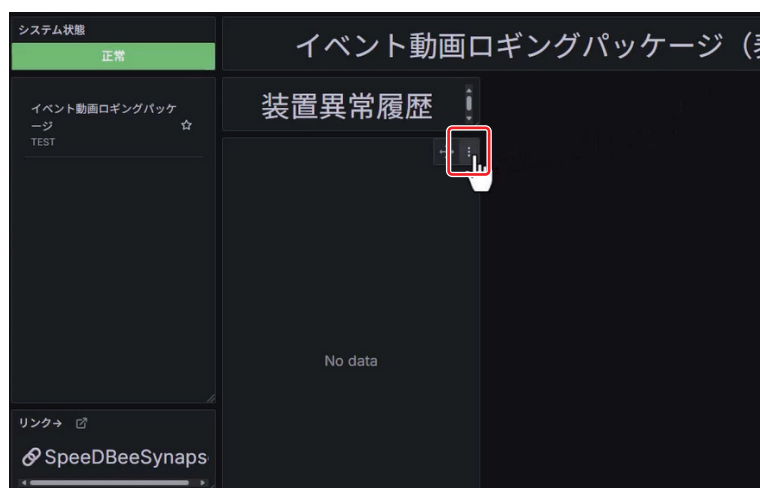
画面が切り替わります。



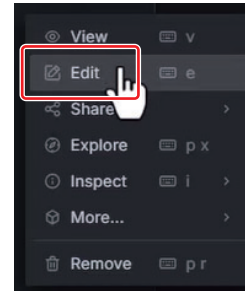
5 [Edit] をクリックします。



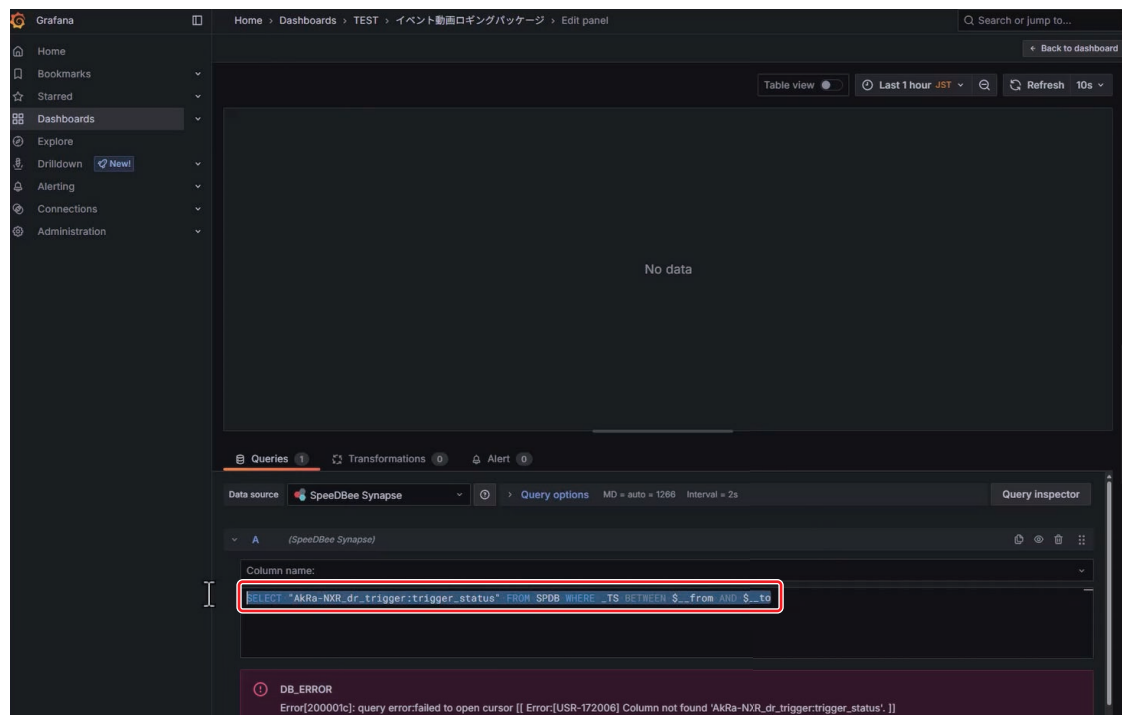
6 以下の部分にカーソルを当て をクリックします。



7 [Edit] を選択します。



8 以下のプログラム部分を変更します。



【変更前】

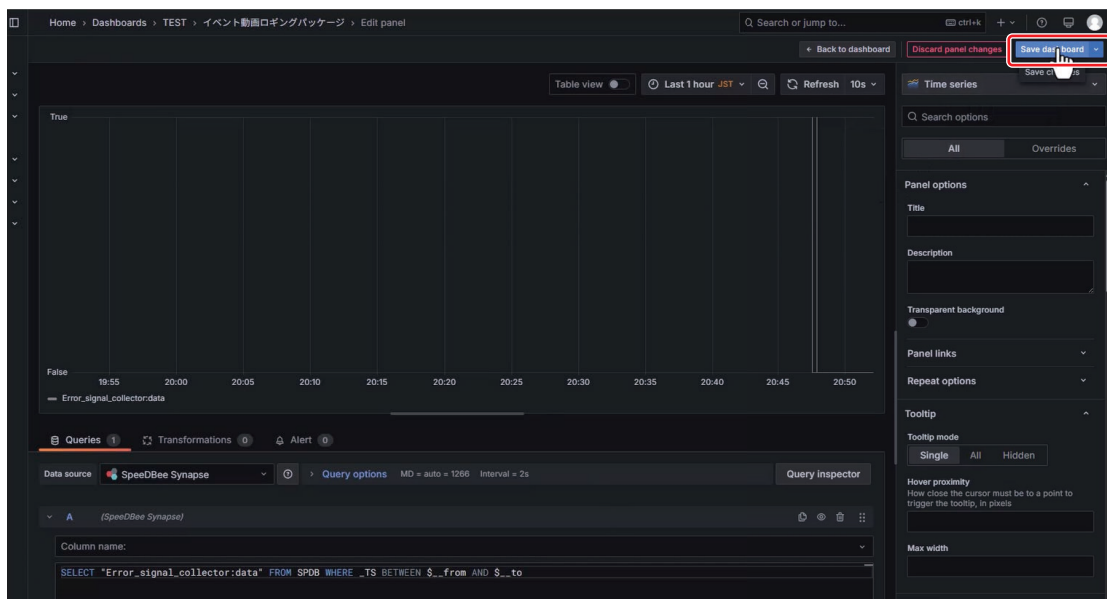
```
SELECT "gtBm-NXR_dr_trigger:trigger_status" FROM SPDB WHERE _TS BETWEEN $__from AND  
$__to
```



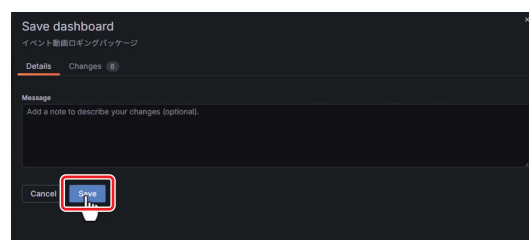
【変更後】

```
SELECT "Error_signal_collector:data" FROM SPDB WHERE _TS BETWEEN $__from AND $__to
```

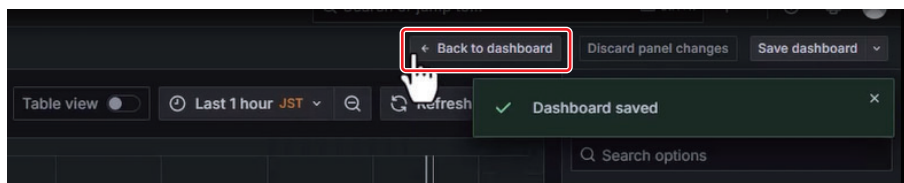
9 [Save dashboard] をクリックします。



10 [Save] をクリックします。



11 [Back to dashboard] をクリックします。

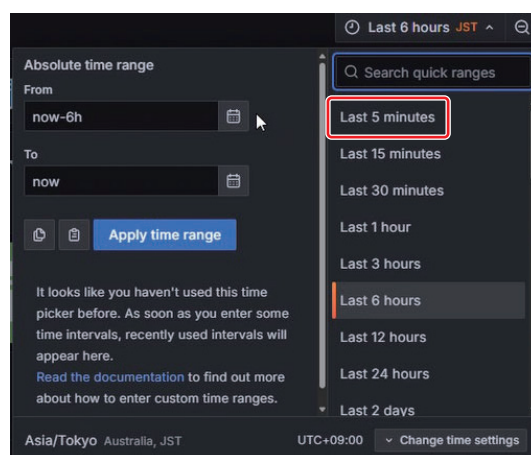


- 12** KPI がグラフに表示されます。グラフの横軸（期間）を変更するには「Last 1 hour JST」のプルダウンメニューから変更します。

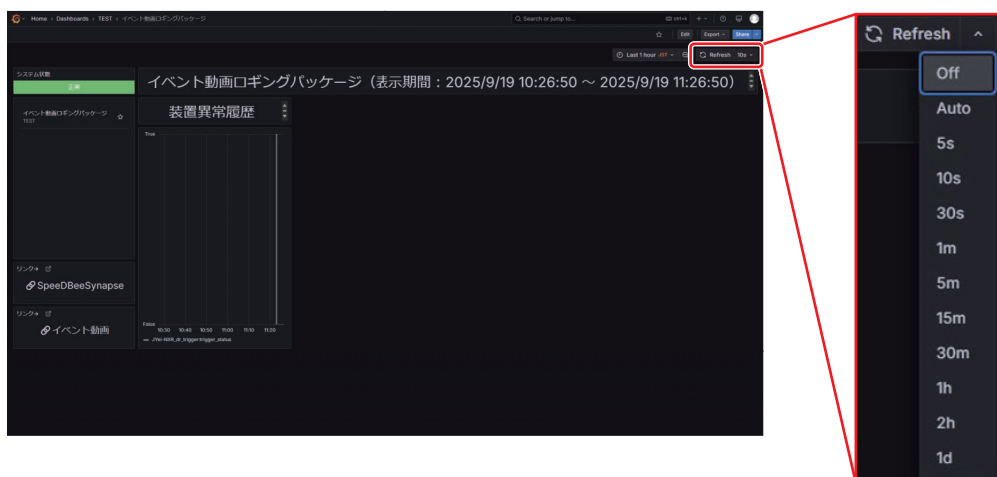


例では「Last 5 minutes」を選択します。

※ グラフの縦軸（数値）は入手データの範囲で自動的にスケール変更されます。



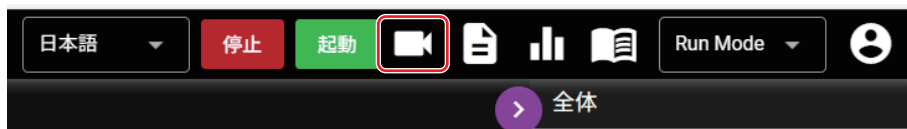
- 13** 横軸（期間）変更されたグラフが表示されます。
データ更新の頻度は右上 [Refresh] をクリックします。
プルダウンメニューより頻度を選択します。



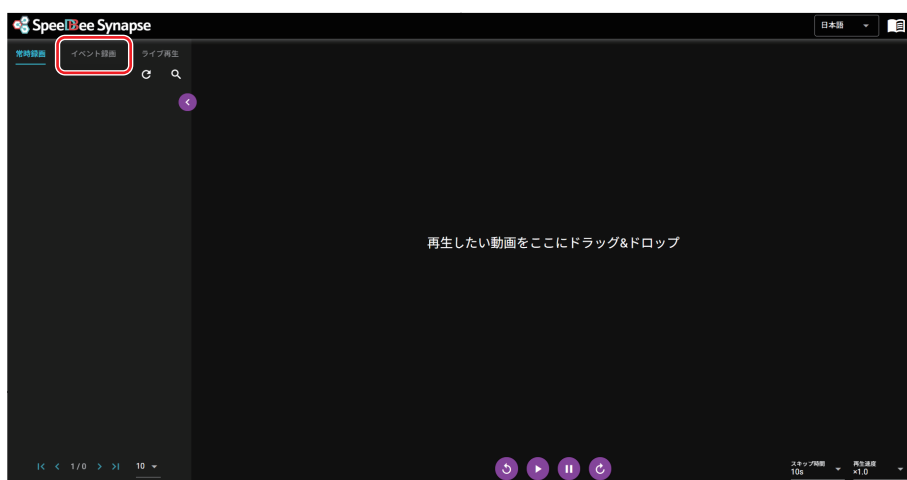
2-4 イベント動画の再生

イベント動画の再生手順を示します。

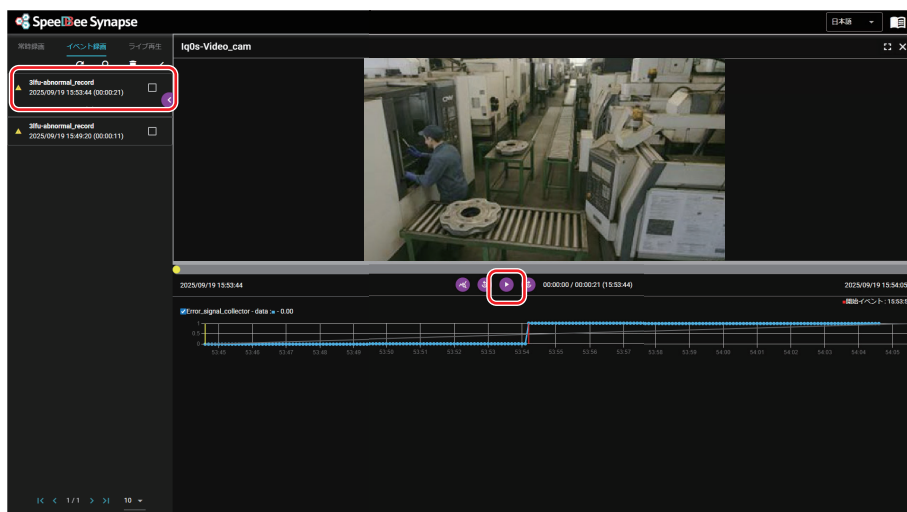
- 1 Synapse パネル右上のビューワアイコンをクリックします。



- 2 「イベント録画」をクリックします。



- 3 リストから見たい録画データをクリックします。
「▶」をクリックすると動画が再生されます。



動画再生機能の詳細は、SpeedBee Synapse の i-Trigger の操作手順を参照ください。
<https://www.saltyster.com/ss-docs/speedbeesynapse/i-trigger/viewer.html>

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

製品に関するお問い合わせ先（DX シリーズ専用）

お客様
相談室

✉ メールでのお問い合わせ（お問い合わせフォーム）

<https://www.fa.omron.co.jp/dx1/contact/>

対応時間：9:00～17:00（土・日・12/31～1/3を除く）



マニュアル動画

<https://www.fa.omron.co.jp/dx1/video-manual/ja/>



その他のお問い合わせ：納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。



オムロン制御機器の最新情報をご覧ください。緊急時のご購入にもご利用ください。

www.fa.omron.co.jp

- 本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
- 本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物（又は技術）に該当するものを輸出（又は非居住者に提供）する場合は同法に基づく輸出許可、承認（又は役務取引許可）が必要です。

オムロン商品のご用命は